

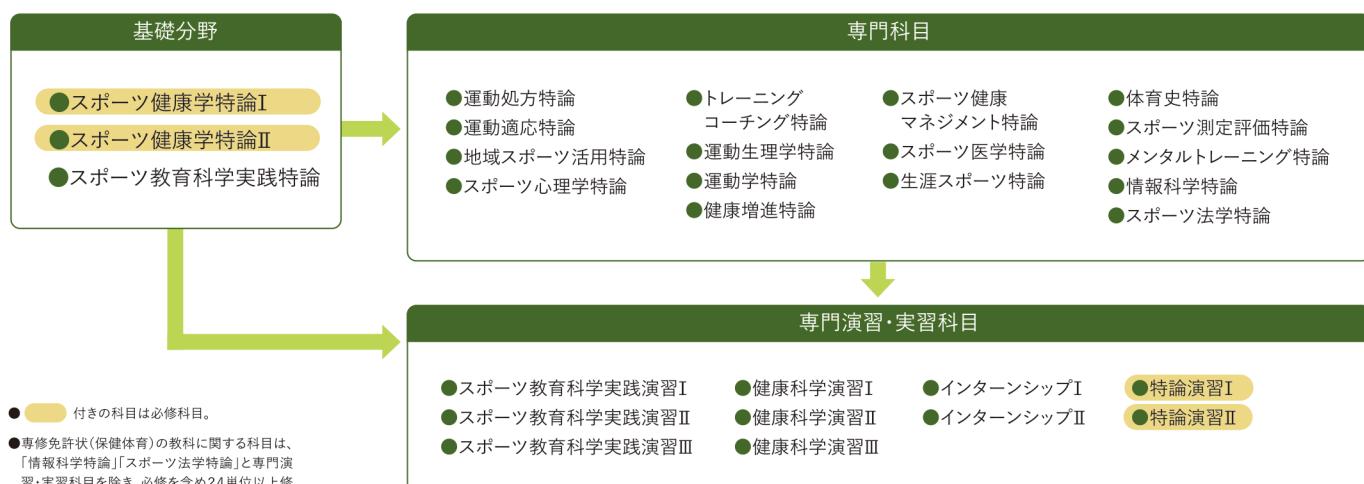


# スポーツ健康学研究科 | 修士課程

広い視野に立った専門性を習得し、  
地域に貢献できる人材を目指します

スポーツ健康学研究科(修士課程)は、スポーツ健康学に関する広い視野に立った専門性や実践的な指導能力を習得し、地域社会の発展に貢献できる人材、特に地域のスポーツ推進リーダーやスポーツ指導者等の人材育成を目的としています。また、中学校・高等学校「保健体育」の専修免許状を取得できる教員養成課程を設置し、学校教育分野で活躍できる人材を養成します。現役学生だけではなく、現職の教員や社会人も学ぶことができるよう、授業は主に平日の夜間および土曜日に開講します。また、最長4年間で弾力的に単位取得ができる「フレックス履修制度」を導入しています。さらに、充実した学習・研究生活を支援するために、本学独自の奨学金制度「KGスカラシップ」を設けています。

本研究科のカリキュラムは、次のようにになっています。



## ■ 履修モデル

本研究科では、地域のスポーツ・健康分野の牽引役となる人材を養成するために、以下の履修モデルを設定しています。

### 地域のスポーツ 健康推進リーダー モデル

地域社会におけるスポーツ推進や健康づくり施策を実践するための力量を備えた人材の養成を目標とし、主に健康に関する深い学修と理解のもとにスポーツを通じた体力向上・健康づくりに関する専門的知識の深化を図ることが可能な履修モデルです。スポーツ・健康推進リーダーとして地域住民それぞれのライフステージに応じたスポーツ活動への支援と対応ができる人材の育成を目指します。

「運動処方特論」「地域スポーツ活用特論」「健康科学演習I」「健康科学演習II」「健康科学演習III」を中心として学修し、地域スポーツ・生涯スポーツなどのスポーツ・健康に関する幅広い知識を習得して、個々人の体力・運動能力等の把握に努め、体力レベルに合った運動処方を実施する能力の養成を目的とします。

### スポーツ指導者 モデル

国内外の大会において活躍できる選手を育て上げる指導者の養成を目標とし、スポーツ科学・健康科学全般についての学修を行い、とりわけスポーツ指導に関する実践力の向上を図るために専門演習・実習科目に重点を置いた履修モデルです。アスリートを育成するために必要な指導理論や、発育・発達段階に応じて指導内容を明確にしたプログラムを作成し、これに基づいて競技者育成のための指導体制が構築できるスポーツ指導者の育成を目指します。

「運動生理学特論」「運動学特論」「スポーツ教育科学実践演習I」「スポーツ教育科学実践演習II」「スポーツ教育科学実践演習III」を中心として学修し、身体運動に関する専門的な知識を習得して、競技指導力の向上や指導体制の構築に新たな知見を取り込むことができるなど、指導者に要求される能力の養成を目的とします。

### 保健体育教員 モデル

中学校・高等学校の専修免許状(保健体育)の取得を目標とし、学校教育現場で必要となる多様な知識の習得を図ることが可能な履修モデルです。学校体育・スポーツを充実させ、生徒の豊かなスポーツライフの基礎を培い、スポーツへの興味・関心を高めるとともに、体力の向上を目指す教育活動ができる教育者の育成を目指します。

「生涯スポーツ特論」「スポーツ測定評価特論」「スポーツ教育科学実践特論」を中心として学修し、保健体育教員として幅広い知識を習得して、教育現場で実践できる力を身に付けるとともに、「新学習指導要領」を基に学校体育の充実を図り、健やかな身体と心を育成するために必要不可欠な指導力の養成を目的とします。

#### 修了までの流れ



#### 修了の要件

次の要件を満たせば、修士(スポーツ健康学)の学位が授与されます。

- 標準2年の在学 (ただしフレックス履修生の場合は最長4年間で弾力的な履修が可能)
- 所定の32単位以上 (必修科目10単位を含む) の修得
- 修士論文の作成・合格